

**2013年3月石原社長定例記者会見概要**

3月27日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<編成関連>

下期の視聴率平均は、特別編成で年末年始の視聴率が前年度と比べてアップしたことに加え、野球のWBCが非常に高い視聴率を記録したこともあって、ほぼ前年度並みの水準にまで戻している。レギュラー番組も、曜日によってデコボコはあるが、日によってはトップを取る日も出てきており、明るい兆しが出てきていると思っている。WBCは、本戦の4試合を中継したが、準決勝の対プエルトリコ戦が、平日の、昼をはさんだ時間帯だったにもかかわらず、20%を超えた。惜しくも決勝には進めなかったが、中継や、関連番組を通して、侍ジャパンのメッセージを伝えることができたのではないかと。また、WBCの相乗効果もあって、ほかの番組も、視聴率は上向きだ。中でも日曜劇場『とんび』は、最終回90分スペシャルで20.3%という高視聴率を記録し、視聴者のみなさまからも、大変良い評価をいただいた。今の上向きの流れを、このまま新年度につなげていきたい。

<営業関連>

2012年度の業績見込みだが、タイムが前年を上回り、スポットはほぼ前年並みとなる見通し。ネットタイムは、レギュラー番組はほぼ前年並み、単発セールスでは上期にロンドン五輪など、下期にもWBCとスポーツ大型単発が相次いだため、通期で104%程度となる見込み。ローカルタイムについては、下期はレギュラー番組のセールスが前年実績を上回り、東京アクアライン市民マラソンなどの単発が売上に寄与して、前年比105%程度となる見込み。しかしながら、通期では上期のダウンが大きく影響し、前年をやや下回る見込み。スポットは、上期は震災の反動によりプラスとなったが、下期は1月以外、全ての月で前年実績を下回っており、通期では僅かに前年実績を上回る見込み。

2013年度の業績見通しは、上期のネットタイムについては、レギュラーの売上は2012年度下期並みとなる見込み。ローカルタイムについては、ミニ枠を中心に改編作業は堅調に終了し、レギュラーの売上は前年実績を上回る見込み。スポットについては、2,3月の投下量が足踏みしており、それが4月に影響し、第1四半期の見通しはかなり不透明だ。

<スカイツリー移転／4K・8K 放送について>

スカイツリー移転については、今月後半から、1時間規模の受信確認テストを集中的に行って、対策工事を鋭意進めていると聞いている。明日と、今度の日曜日に1時間のテストを実施するので、それを全て終えたところで分析・評価して、今後の対応を検討することになる。在京6社が力を合わせてスムーズに移転できるよう努めていきたい。スポンサーや広告会社に対しては、受信障害が発生する世帯が全体からみれば多くなく、このような受信障害を一刻も早く解消するために周知広報に努めていることを報告し、ご理解をいただくよう努力している。

4K・8K への取り組みは、日本経済の成長戦略、国際競争力強化の面からも重要なテーマであり、協力できるところは協力していきたい。しかし、地デジ化が完了して間もなく、4K・8K テレビ受像機の普及は簡単ではないのも事実だ。今のところ地上波は対象になっていないが、コンテンツ制作の面で、今後視聴者ニーズの動向や送信技術・圧縮技術の進展などを見守りながら対応していきたい。

<事業関連>

事業関連の舞台では、赤坂 ACT シアターで、この日曜日まで上演された中村勘九郎さん、七之助さん出演の赤坂大歌舞伎「怪談乳房榎」が、追加公演の立ち席まで完売し、追加公演も含めて3万人を超えるお客さまに観て頂いた。松竹からも、新しい歌舞伎座のいい形での序章になったという評価を頂いている。

展覧会は、『ミラノ アンブロジーアーナ図書館・絵画館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ展～天才の肖像』が、来月23日から東京都美術館で開催される。目玉は、ダ・ヴィンチのミラノ時代の傑作《音楽家の肖像》や、直筆のノートなどで、すべての作品が日本初公開だ。

来月フランスのカンヌで開催される MIPTV(ミップ・ティービー)という国際テレビ番組見本市が、今年50周年を迎えるのを記念して、「世界のテレビを変えた50作」を選んだが、その中に当社の『加トちゃんケンちゃんごきげんテレビ』の「おもしろビデオコーナー」が入った。選出の理由は、「視聴者投稿ビデオ番組の世界的元祖」ということだ。

<ラジオ関連> TBSR&C 入江社長

V-Low マルチメディア放送への参入について、民放連理事会で『ラジオ全社での音声優先セグメントへの参加は断念する。V-Low マルチメディア放送への参入を目指すラジオ社もあれば、AM 放送の難聴解消などを目的として FM 放送の活用を希望するラジオ社もあるので、双方が両立する制度整備などを求めていく』という方針が承認された。TBS ラジオとしては V-Low 帯に関しては音声優先セグメントへの参入を見合わせるるとともに、都市部の難聴取対策として AM 波の補完的役割としての FM 波の活用を検討していく。

以上